

## 高砂市教育振興基本計画策定検討委員会(第2回) 会議録(要旨)

- 1 日時 令和6年11月12日(火) 午後1時30分~午後3時30分
- 2 会場 高砂市役所南庁舎2階 会議室1
- 3 議題 (1) 第4期高砂市教育振興基本計画(素案)について  
(2) パブリックコメント(意見募集)について
- 4 委員出席者 9名  
押田 貴久(委員長) 赤松 祐人(副委員長)  
藤原 寛文 福井 姿寿子 松本 克英 森口 輝一  
今村 康彦 片岡 さわ子 河井 建吾
- 5 事務局 教育長 教育部長 教育推進室長 学校教育室長 学校教育室参事  
教育総務課長  
子育て支援室長
- 6 会議の公開 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録要旨 この会議録は、抄録として発言の要旨をまとめたものであり、全ての発言が記載されているものではありません。

### 開会 (午後1時30分)

#### 【事務局】

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。はじめに、資料の確認をお願いします。事前配布資料として、資料1と資料2、当日配布資料として、資料3と資料4があります。

ただ今より第2回高砂市教育振興基本計画策定検討委員会を開会します。開会にあたり、教育長の玉野より、ごあいさつ申し上げます。

#### 1 教育長あいさつ

#### 【教育長】

お忙しいお時間に高砂市の教育を考えるためにお集まりいただきありがとうございます。教育振興基本計画策定年度ということもあり、近隣自治体の視察を行い他の自治体の取組などについて、私自身研究をしてきました。様々な取組が考えられる中で、重点化を大切にされた素案をお示します。内容のこと、KPIのことなども、皆さまのご意見をいただきながらよい計画にできればと思っておりますので、こどもたちのた

め、高砂市民のために、忌憚のないご意見をお願いいたします。

【事務局】

それでは、この後の進行は、押田委員長をお願いいたします。

## 2 第4期高砂市教育振興基本計画についての協議

【押田委員長】

それでは、協議に入らせていただきます。はじめに、協議1の第4期高砂市教育振興基本計画素案について、事務局から説明をお願いします。

### (1)第4期高砂市教育振興基本計画(素案)について

【事務局】 [資料1に基づき説明]

【押田委員長】

事務局より、第1回の検討委員会のときには3つの基本目標と9つの基本方針、23の具体的な取組が挙げられておりましたが、今回は3つの基本目標と9つの基本方針、24の具体的な取組として整理していただきました。この点も含め、ぜひ皆さまのご意見をおうかがいしたいと思います。まず、基本目標1の学校教育の部分、1-1から1-3についていかがでしょうか。

【委員】

よいものが出来ていると思います。1-3の「学びと育ちの連続性」について、イメージができないので、具体的に説明してほしいです。

【事務局】

素案の19ページの1-3-1小・中一貫教育の発展のところで、小・中学校の独自性を大事にしながら、各小・中学校の現状と課題、保護者や地域の願いを踏まえて、義務教育9年間の学びと育ちの連続性と系統性を重視したカリキュラムの研究に取組むこと、また、1-3-2では小・中学校だけではなく、就学前の教育からの架け橋プログラムに基づく教育・保育を推進していく、就学前から小学校への連続性を充実させていく内容を盛り込んでいます。

【委員】

こどもが学ぶことと育つことの連続性をどう考えるかをお聞きしたいです。こどもの内面的な部分を見たときの学びと育ちを教員がどう把握しているのか、どう考えればよいのかという、対教員、対児童生徒で考えたときに、どう捉えればよいかお伺いします。

#### 【事務局】

小学校の先生と中学校の先生で子どもに対するイメージが変わってしまっている、ということが起こらないように、「この子はこんな学習が得意です」「このような性格です」などと小・中学校の教員が共有して、「小学校ではこうだった」「中学校ではこうだった」「それはどうしてそのようになっていったのか」ということを研究しながら、子どもたちのよりよい成長につなげていくことを大切にしたいということです。就学前の教育についても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学びのつながりがなかなか難しかった現状があったので、その点もよりつなげて、15年間で子どもたちの学習指導や生徒指導を充実させていくことが、子どもたちにとってよりよい成長につながっていく、また教職員の資質の向上にもつながっていくという、連続した形で教育を進めていきたいと考えています。

#### 【委員】

1-2の「豊かな心と健やかな体の育成」の1-2-2「いじめを未然に防ぐ・いじめを見逃さない・いじめから守り抜く」体制の強化とあります。現在は個別面談やアンケートで未然に防いでいると書いているが、全国の学校がそういったことをしているにも関わらず重大な事案につながるケースが多々あります。その中で、この体制をどう一層強化していくか具体的に教えてほしいです。

#### 【事務局】

アンケート調査や個別面談などは、きめ細かく年間数回実施しているところです。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用をしているのですが、今後はより一層、学校への周知をしながら活用を進めて、いじめ問題についての体制強化について、市として進めていきたいと思っています。

#### 【委員】

いじめられていると自分から発信できる子はいいいのですが、できない子はどうしていくのか、そのあたりは強化の中に含まれているのでしょうか。スクールソーシャルワーカーなどの専門家が多くても、声をあげられないと問題として見つけられないのではないかと思います。そのような子どもを見逃さない仕組みがあればよいと思いました。

#### 【事務局】

本当に子どもたちに寄り添った意見だと思いました。ICTを活用して、「今日学校に来たよ」「今日の気持ちは晴れ、曇り、雨」と意思表示ができるシステムを通じて、自分の状況を知らせることができるような取組を市内で実施している事例などもあります。そのような事例も参考にしながら取組んでいきたいと考えています。

#### 【押田委員長】

今のご意見を受けて、具体的にどのような施策を進めていくかを考えるきっかけにもらえればと思います。子どもが自ら現状を発信しにくい状況にあった場合に、どのように発信できる環境を作っていくのかを今後考えていただけるとよいと思います。

【委員】

19 ページの小・中一貫教育カリキュラムという言葉が出てきますが、具体的にイメージしにくいので、どういうものか教えてほしいです。研究に取組むと書いていますが、研究だけなのか、カリキュラムも作るのかというところを教えてください。17 ページの学校給食について、KPIで行事食の回数が現在は年間 10 回で、目標は年間 11 回以上となっていますが、行事食はお金がかかります。それを 11 回に増やすことが本当にできるのか、具体的な考えがあるのかというところを教えてください。

【事務局】

小・中一貫教育カリキュラムについてですが、現在隣接している小・中学校で小・中一貫教育を進めており、離れているところでもいろいろな形で小・中一貫教育が進んでいます。小学校1年生から中学校3年生まで、この教科ではこのように学んでいこう、という方針を作っている学校もあります。市として調査研究しながら、カリキュラムを作るという段階や場面も想定されるため、研究としています。小・中一貫教育が進んでいる校区の取組から研究を進めていきたいということです。もう一つの給食についてですが、KPI については、今後も検討が必要だと思っておりますので、学校給食課を中心に検討してまいります。

【委員】

小・中一貫教育校について、将来的には全市的に取組んでいく考えなのでしょうか。

【事務局】

現在は、連携を中心とした小・中一貫教育であるというのが現状です。一つの学校の中に小学校と中学校があって、一貫としていきたい思いもあります。文部科学省では、施設が一体でなく、分かれた形での小・中一貫教育についても例示していますので、今までの取組が発展するような形にしていきたいと思っています。小学校と中学校が教科でつながる、学習でつながることを大切にするということから、カリキュラムの研究としています。

【委員】

学校の給食についてですが、子どもたちが満足しているかなどの調査はしていますか。

【事務局】

アンケートなどを行っています。

【委員】

全員回答ではなく、抽出で、味や量に関する調査を小、中学校で行っています。

【委員】

今の給食費は1食いくらですか。

【事務局】

小学校が263円、中学校が293円です。

【押田委員長】

委員が満足度を質問されるということは、児童生徒は満足していないのではないかと、ということですか。

【委員】

小学校の時はおいしかったが、中学校では、少し、という声が聞こえてきます。

【事務局】

小学校は自校で作っているので、子どもたちの残し具合などの反応を見ながら調整できるかと思います。中学校はセンター方式ですので、画一的な味になっているために評価が高くないのかもしれませんが。小学校の子どもたちは満足していると思います。

【委員】

中学校では、肉じゃがについて満足していないと思います。ジャガイモが溶けてしまっていて、センターにも伝えているのですが、先生方も子どもたちの量を調整するなど苦労していると聞いています。改良してほしいのですが、量が決まっているとのことでした。

【事務局】

小学校は自校給食なので、配膳までの時間も短く、潰れることもないのかもしれませんが。

【委員】

給食に関連して、新聞などを見ていると、仕入れは地元産のものを使っているなどと、季節ごとに話題として取り上げられていますが、高砂市ではどうですか。

【委員】

地産地消として、直近であれば里芋やキャベツ、ジャガイモなどが使われています。来年の分では加古川パスタも使う予定です。先月はひょうご食育月間だったので、地元の食材をできるだけ使おうということに取組んでいます。また、有機の味噌や醤油を使うなどにも取組んでいます。取組は、子どもたちにも知らせています。

【委員】

味については、各学校に感想を聞き、給食センターに伝えれば対応できるのではないかと、思いました。

【事務局】

令和6年3月の議会でも話題として取り上げられまして、令和5年10月に取ったアンケートから、「給食の時間は楽しいですか」「ご飯食とパン食はどちらががよいですか」「味付けや量はどうですか」など、一

部を報告しました。そのとき、楽しいということもが中学校で 54.6%でした。学校給食の味付けに関しては「ちょうどよい」という声が 74.6%、給食の量については「ちょうどよい」という声が 60%でした。全生徒に調査を行ったわけではありませんが、資料として出させていただきました。

【押田委員長】

食べることは生きることの基本ですので、教育を通じて食にもっと意識を向けてほしいという委員さんの要望にもなると思いますので、またご検討いただければと思います。もちろん、厳しい経済状況、財政状況の中でバランスを取ることは難しいと思いますが、特に中学生の体が大きくなる時期のことは、市としても考えていただければと思います。

【委員】

食育のことが続くのですが、1-2-3の体育の授業について、どのように各教科と関連させていくのかということと、食育について、関連する取組の3-1-2とどう絡めて推進していくのかを聞きたいです。また、ゲストティーチャーについて、小・中合わせて 16 校で実施するのか、こども園も合わせてするのか、お教えいただきたいと思っています。

【事務局】

学校給食の「家庭と連携を図り」という点ですが、現在も、各学校で連携を進めていますが、今後は家庭とのデジタル連絡ツールなどのアプリを活用して、確実に発信を行っていきたいと思います。また各教科での指導と関連させるという点ですが、現在も食育は、各学校で栄養教諭が中心に、家庭科などの学習で行っていますが、市としても、さらにしっかりとした体制づくりに取り組みたいと考えております。体育のゲストティーチャーについてですが、今現在、小学校で進んでいる状況です。水泳指導や器械運動の指導などで行っており、充実していきたいというところです。基本的に国や県が中心の事業ですので、今現在行っている小学校を中心に拡がっていければと思っています。

【委員】

中学校にはゲストティーチャーの招聘はないという認識でよろしいですか。

【事務局】

中学校は専門性のある先生がいるわけですが、県が中心となる事業なので実現できるか分かりませんが、より専門的な方がいれば、例えばオリンピック候補選手など、お呼びしたいという気持ちはあります。

【押田委員長】

オリンピックの活用など、より専門的な部分は中学生の方が要望されることもあるかと思いますが、予算の関係などもあるかと思いますが、大きな方向として、外部人材の活用が必要だということが入れられればと思います。

### 【委員】

18 ページで、5歳児から小学校第1学年の架け橋期が大事なのはわかっていますが、5歳になってから架け橋で学びをつないでいくわけではないので、できれば0歳から5歳についても入れてほしいです。0歳から連続性をもって5歳児まで育てて、そこから小学校、中学校と、こどもたちがよりよく幸せに人生を送れるように、育ちをつなげているという思いは、どの園も持ち合わせていると思います。就学前教育が19ページにしか書かれていないので、どこかで工夫して、5歳以下のこどもたちへの支援についても入れていただけると嬉しいです。また19ページの1-3-2の「就学前教育の学びの充実と連携」の中で、1項目の「こどもの発達段階を見通した架け橋期の教育の充実」もよく分かるのですが、最後の「より小学校への連続性を意識した実践の充実を図ります。」で終わるとなると、小学校につながるために保育をしているように伝わるため、0歳から愛情をこめて大切に育てきた先に小学校があるのだと考えてほしいです。就学前の教育が見えてくるようで見えてこず、分かる方が見れば分かると思うのですが、そうでない人を見た時に、小学校の前段階の保育のように捉えられてしまうようなことが起きないのかと心配しています。

### 【事務局】

第3期のときは幼児期の教育の項目がありましたが、今回は、こども園が教育部ではないこともあり、義務教育から見たつながりという表現になってしまったということを反省しています。委員がおっしゃるように、「幼児教育はこういったことをしているのですよ」という表現を工夫して追記したいと感じました。接続の部分が大切であるということを確認していますので、そこはしっかりと残した上で重点的に取り組むことを表現していきたいと思います。

### 【委員】

先ほど「学びと育ち」でも言ったことですが、我々がこどもをどう見るのか。こどもは大人になるための準備期間ではなく、こどもにはこどもの価値があると思っています。小学校なら小学校、中学校なら中学校の価値があり、小・中一貫はどうなのでしょう。小・中一貫がよいと考えているのだと思うのですが、中には区切りがあった方がよいのではないかと考えている人もいます。それぞれの時期に応じた教育があるということはしっかりと押さえていただきたいと思います。

### 【押田委員長】

前は1-4として項目があったものが、今回は1-3の中にまとめられており、そうなった際に、幼児期の教育は誰が責任を取るのかというところで、教育委員会としての関わりが抜けていませんか、という投げかけにもなると思います。教育委員会も生涯学習の観点からも関わってくるわけです。幼児期の教育をどうしていくのかは、生涯学習のベースとなるところですので、何らかの形で1-3に入れることを検討いただければと思います。

### 【委員】

19ページに、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を踏まえた就学前教育カリキュラムと書いていますが、小学校に入学前に、こども園や保育園に行かずに小学校に入学するこどもの割合はどれくらいですか。

【事務局】

細かい数字は今もちあわせていませんが、大多数のおこさんがこども園や幼稚園などに通っています。

【委員】

今年、外国籍のこどもが、こども園などに通わずに小学校に入学しており、なじめずに変な思いをしていると聞きました。家庭では母語になるので、友だち関係のことを考えると、保護者が在宅でもこども園などに入れるなどの環境にしてほしいです。今後も、外国籍のこどもたちが日本の小学校に入学することを考えると、幼児期に日本の教育の機会も与えることで、小学校、中学校での学習の移行がスムーズになると思います。保護者が家にいるかどうかなど基準による入園の決定が原則だと思うのですが、各家庭の様々な事情がある中で、柔軟な機会がありますよ、という高砂市になってほしいです。人員の不足の問題はあると思いますが、家庭で保育が難しいこどもたちを受け入れて、愛情をもって育てて小学校に入学することで、問題行動なども少なくなるのではないかと思います。

【押田委員長】

今のご指摘は、1-3、2-1のあたりを中心としてご発言いただいたかと思います。

【事務局】

基本的には保護者の就労などが認定の基準になってきますが、1号認定では、保育の時間も短くなると思います。その中でも延長保育や子育て支援事業なども実施しており、外国籍の方なども状況が変わってきていますので、実情を見極めながら、対応を検討していく必要があると思っています。

【事務局】

体験保育や相談事業など、園のこどもたちだけではなく、在園していない入園前のこどもなども含めて、交流事業をしています。食事の相談や家庭の人間関係の相談も受けるなど、取組を行っています。

【押田委員長】

基本目標2の教育環境を中心に議題を移していきたいと思います。一人ひとりに応じたきめ細かな教育に特別支援教育を今回追加したということですが、よろしいでしょうか。先日、新聞報道でもありましたが、不登校の児童生徒数が増えています。学校としても精一杯やっていると思いますし、学校だけでは対応しきれないところもあるかと思いますが、皆様のご意見をいただきたく思います。また、先生方の力量形成も重要ですし、働き方改革も進めていますが、いかがでしょうか。あとは、ハード面ですね。別の委員も務めさせていただいておりますが、結構しんどいですよね。高砂市の学校は老朽化などもあり、心配に思うところもあります。また、ICTに限らず様々な新しい学びを展開していく上での方向性として、2-1、2-2、2-3にかけて、何かご意見はありますでしょうか。

【委員】

2-1-2「多様なニーズに応じた教育の推進」で、「だれもが充実した学びとなるための日本語指導の推進」とあります。令和5年度から外国にルーツがあるこどもの日本語指導について、予算を取っていた

だき感謝しているのですが、これが本当に日本語指導の充実につながっているのかというところが見えていない状況です。県の子ども多文化共生サポーターという制度があり、在留1年未満のこどもたちに対して、母語が分かる方が学校生活をサポートするシステムですが、学校生活面へのサポートが中心の印象があります。日本語指導を丁寧に行っていないと、その後につながっていないのではないのでしょうか。学校にいるから日本語が分かり、学習を理解しているかという、必ずしもそうではないということを、先生方には理解していただきたいと思います。日常会話ができるからと学習の支援を終えてしまうと、学習で苦勞することがあります。義務教育後に、状況によっては、日本で1週間に28時間までの就労となるケースもあります。外国人児童生徒が将来就職し、日本に定住できるような土壌が必要です。これから外国人がどんどん増える中で、貴重な人材となるであろうこどもたちが、生きていくための日本語を学び、義務教育で学力をしっかりと身に付けるためにも、日本語指導を大切にしてほしいと思います。

#### 【押田委員長】

21 ページの日本語指導で、今のご要望にすぐに対応することは難しいことだと思いますが、5年後どのような姿になっているべきなのかということを踏まえて、検証いただきたいと思います。

#### 【事務局】

日本語指導については、1年間は県で、その後は市で継続してサポートできる仕組みがようやく整ってきた状況です。一人一台のタブレットがあり、翻訳機能などもあるのですが、そこだけに頼らず、中学校卒業後も、これは外国人児童生徒に限りませんが、継続して学校生活を送れるように学校も工夫をしています。テストにより学力を把握し、必要に応じて補習をするなど、今後の対策も考えていかなければならないと思います。卒業後の追跡調査は難しいところがあり、高等学校の退学などは報告がないと把握できず、報告があっても資料を求めてくるこどもたちには学校の紹介などもしている状況です。今後も、継続して支援をしていきたいと思っています。

#### 【委員】

「関係機関との連携」とありますが、こういったところか具体的に示した方がよいと思いました。例えば外国人児童生徒の部分についても、関係機関とはどこで連携を図ればよいのかイメージがしにくかったので、もう少し具体的に書いていただいた方がよいと思いました。

#### 【事務局】

表記の具体性について、全体でのバランスを含めて、調整を検討できればと思います。

#### 【委員】

23 ページの2-2のKPIについて、教員の10日以上の年次休暇の取得率がKPIになっていますが、現状が83.7%で目標が85%とありますが、これでいいのかなと思いました。何を根拠にこの目標が設定されているのか、市民の方が見たときに分かるのかが気になりました。

【委員】

これを見ると結構休んでいると思いました。ここは教職員がこどもと向き合うための環境の充実という項目ですので、それが表れる指標にしなければいけないですね。全体を通じてですが、KPIがこの内容でよいのかを再検討いただいた方がよいと思いました。

【委員】

私は民間企業に勤めているのですが、10日以上の休暇取得率は100%が当たり前の目標なので、私から見ると少なく見えました。見る人によって捉え方は変わってくるので、よいか悪いかは難しいですが、この表現の仕方は工夫が必要かと思いました。

文言などは問題ないのですが、感想ですが、ICTについて記載がありますが、ICTが不得意な先生も多いのではないかと思います。私自身もコロナ禍により、急にICT化が進んだ印象があります。得意なものは進むのですが、不得意なものは進まないことがあります。学校の先生方にとって、できている先生を学びにさせてもらう機会があったり、市や教育委員会、国や県からの参考事例の共有の機会があったりすれば、ICTの苦手な先生にとってもいいのかな、と思います

【押田委員長】

次の3の生涯学習に移りながら全体でご意見をいただければと思います。地域とともにある学校づくりということで、学校運営協議会の記載もありますが、いかがでしょうか。

【委員】

文言は問題ないと思います。高砂市として学校運営協議会の取組を通じてどんなゴールを描いているのでしょうか。以前受けた研修では、最終的にこどもたちが大学進学などで、それぞれ異なる地域に住むことになったとしても、後にふるさとで就職したい、恩返ししたいと思えるようになるということがゴールだと受け止めました。なかなか文字にするのが難しいと思うのですが、どんなゴールなのか、ということが明確になれば、今取組んでいる方にとっても分かりやすいと思いました。

【委員】

効果的で持続可能なという点について、今引き受けている人が引退したときに、次の人材がないという現状があり、委員の方には報酬を支払う形での対応にしていると認識しています。今後は、60代以降にも現役で働く人が多くなると考えると、ボランティアの余裕がない現実があるのではないかと思います。私自身が学校運営協議会や青少年健全育成連絡協議会の活動をしながら、この先どうなるかという思いでいます。ですが、このような活動をしなくていいか、と言われれば、そうではなく、こどもや地域のために必要で、安価な報酬でボランティアのようにお願いすることは時代的にも難しいのではないのでしょうか。今後のことを考えた時に、お仕事としてお願いしていくべくかと思います。

【押田委員長】

資金に限らず、全体的な課題かなと思いますので、ここで表現するのは難しいかと思いますが、引き続き検討課題としていただければと思います。27ページに部活動の地域移行とありますが、保護者として不安

に思うところ、学校現場として試行錯誤しているところもあると思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

部活動はやはり勉強だけではない部分として、別の勉強ができる場だと思っています。学校として、部活動は主ではなく、勉強の方が主になってきている現状もある中で、私はやはり部活動も一生懸命やってほしいと思います。指導者がいないという現状があると思うのですが、先ほども話題になったように、報酬を支払って、指導者を雇うという方向にもっていかなければいけないのかなと思っています。

【委員】

部活動の地域移行に関する検討委員会の中で、熱い話し合いが行われています。先生方の働き方改革の一環となることも理解できていますし、サッカー部については高砂市で実証研究が進んでいるようで、これから少しずつ新しい部活動を増やしていくことができればと思っています。教育振興基本計画の最終的な令和11年度の目標に向けて進めていければいいのではないかと思います。

【委員】

6校の3部活という表現がありますが、具体的に名称を挙げることは難しいでしょうか。保護者の方からの意見として、自分の子どもが入学する中学校の部活動の地域移行状況などを知りたい、部活動に入るのか、他のクラブチームに入るのかの判断のためにも情報がほしいという声もあります。地域移行の目標のところに、具体的に情報を公開するのでもいいのではないかと思います。

【押田委員長】

地域をベースとした学びの充実や生涯学習の推進も含めて、これまでのご意見も踏まえてKPIの見直しをしていただきたいと思います。KPIについては、回数などのアウトプットではなく、成果指標として明確なものにしてほしいと思います。その他、最後に伝えたいことはございますか。またご意見などがございましたら、後ほど事務局の方にご意見をいただくという形でよろしいでしょうか。それを踏まえてパブリックコメントに移っていきたいと考えておりますが、再調整の確認については、委員長、副委員長に一任いただくということでもよろしいでしょうか。

[委員一同承認]

(2)パブリックコメント(意見募集)について

【押田委員長】

続いて、協議2のパブリックコメントについて、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 [資料2に基づき説明]

【押田委員長】

何かご意見やご質問はございますか。子どもたちにも意見を求めるのであれば、子どもたちが見られる

場所に設置していただく必要があると思いますので、校長会などでの説明や学校の協力が必要と思います。資料の閲覧場所に学校や校長室などを入れていただけるといいと思いました。こども園は難しいと思いますが、保護者の方々を含めて多くの市民の方が見られる場所に設置していただくのがよいかと思います。1か月という期間にはなりますが、市民からのご意見をいただきながら、最終的な案が年明けにはできると思います。その前に委員の方でお気づきの点がございましたら、遠慮なく事務局の方にお寄せいただければと思います。では最後にスケジュールについて、事務局よりご説明をお願いします。

### 3 連絡事務

#### 【事務局】

パブリックコメントは12月27日までを予定しており、第3回検討委員会を1月21日(火)午後1時30分から予定しておりますので、皆さまご予定いただきますようお願いいたします。パブリックコメントを踏まえた最終の計画案をお示しする予定です。よろしくお願いいたします。

#### 【押田委員長】

次回1月21日(火)午後1時30分からということで、平日の日中になりますが、よろしくお願いいたします。ではこれにて、本日の議題はすべて終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。皆さまご協力ありがとうございました。

#### 【事務局】

事務局よりご案内がございます。本日の会議についてご意見やご感想等がございましたら、資料4により、11月15日までに教育総務課までご提出いただけますと幸いです。以上をもちまして、第2回教育振興基本計画策定検討委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

閉会（午後3時30分）